ワークショップ

ワークショップ1

10月1日(水) 9:20～10:50 C会場

座長：床次 眞司（弘前大学）、石川 徹夫（福島県立医科大学）

高自然放射線地域における線量評価 ―現状と課題―

W1-1 自動車走行サーベイによるインド・ケララ州における外部被ばく線量評価

○細田 正洋[1)]、床次 眞司[2)]、大森 康孝[3)]、サフー サラタ[4)]、秋葉 澄伯[5)]、反町 篤行[3)]、石川 徹夫[3)]、岩岡 和輝[2)]、工藤 ひろみ[1)]、ナイヤー ラグー[6)]、ジャヤレクシュミ パドマバシー[7)]、セバスチャン ポール[6)]

1）弘前大学大学院保健学研究科、2）弘前大学被ばく医療総合研究所、3）福島県立医科大学、4）放射線医学総合研究所、5）鹿児島大学大学院医歯学総合研究科、6）トリバンドラム地域がんセンター、7）自然バックグラウンド放射線がん登録センター

W1-2 インド・ケララ州におけるラドンとトロンによる内部被ばく線量評価

○反町 篤行

福島県立医科大学

W1-3 HBRAにおける疫学調査の状況

○秋葉 澄伯

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

W1-4 福島原発事故による線量評価の現状

○石川 徹夫

福島県立医科大学

W1-5 HBRAとその他の疫学調査の比較

○吉永 信治

放射線医学総合研究所福島復興支援本部健康影響調査プロジェクト

ワークショップ2

10月1日(水) 10:00～11:40 B会場

座長：松本 英樹（福井大学）、前田 宗利（若狭湾エネルギー研究センター）

マイクロビーム生物研究の新展開 ―標的照射によって切り開く新たな細胞応答機構―

W2-1 X線マイクロビーム照射HUVECにおけるバイスタンダー効果および細胞運動

○前澤 博[1)]、宇佐美 徳子[1)]、小林 克己[1)]、宇都 義浩[2)]

1）物質構造科学研究所、2）徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部

W2-2 バイスタンダー細胞におけるDNA損傷

○伊藤 敦[1)]、後田 藤太[1)]、福嶋 大[1)]、山口 力[1)]、前田 宗利[2)]、冨田 雅典[3)]

1）東海大 工、2）若エネ研 医療Gr.、3）電中研 原技研 放射線安全

W2-3 X線マイクロビーム照射細胞のライブイメージング追跡

○横谷 明徳[1,2)]、成田 あゆみ[1)]、神長 輝一[1,2)]、嘉成 由紀子[1,2)]、坂本 由佳[1,2)]、野口 実穂[1)]、藤井 健太郎[1)]、宇佐美 徳子[3)]、小林 克己[3)]、鈴木 啓司[4)]

1）原子力機構 先端センター、2）茨城大院 理工学、3）高エネルギー加速器機構 フォトンファクトリー、4）長崎大 原研 放射線災害医療

W2-4 放医研プロトンマイクロビーム細胞照射装置SPICEの現状

○小西 輝昭、小林 亜利紗、及川 将一、ウォーレン 圭子、古澤 佳也、酢屋 徳啓、内堀 幸夫、白川 芳幸

（独）放射線医学総合研究所 研究基盤センター

W2-5 マイクロビーム放射線を利用した細胞核・細胞質限定的照射によるバイスタンダー効果解析

○鈴木 雅雄
放医研、重粒子

ワークショップ3

10月1日(水) 13：00～15：00 B会場

座長：明石 真言（放射線医学総合研究所）、児玉 靖司（大阪府立大学）

International Workshop on “Roles of Researchers for Radiation Effects and Home Doctors in Radiation Emergency”

W3-1 Public Perception and Interactive Communication on the Risk of the Health Effects of Radioactive Substances

○Yoko Niiyama, Yayoi Kito, Haruyo Kudo
Kyoto University

W3-2 The Role of Radiobiologists in Medical Preparedness and Response on Nuclear and Radiological Emergency

○Alena Nikalayenka
Scientific Secretary of the National Commission on Radiation Protection of the Republic of Belarus, Head of Laboratory of Radiation Safety of Scientific Practical Center of Hygiene, the Ministry of Health

W3-3 What is the roles of home doctors in radiation emergency?

○Tesshou Miki
Sendai-shi Medical Association, The director of first faculty and disaster medicine

ワークショップ4

10月1日(水) 13：00～14：30 C会場

座長：長谷川 正俊（奈良県立医大）、桑原 義和（東北大学）

放射線耐性細胞の起源、性質、そして克服

W4-1 AKT経路を標的としたがん細胞の放射線耐性の抑制

○志村 勉[1)]、桑原 義和[2)]、福本 学[2)]
1）国立保健医療科学院、2）東北大学 加齢医学研究所

W4-2 放射線抵抗性癌幹細胞に対する重粒子線単独或は抗癌剤との併用による細胞生存、DNA損傷、腫瘍抑制効果について

○崔 星
放医研 重粒子セ 次世代P

W4-3 重粒子線および温熱によるX線耐性の克服

○高橋 昭久[1,2)]、馬 洪玉[2)]、中川 彰子[2)]、吉田 由香里[3)]、金井 達明[3)]、桑原 義和[4)]、福本 学[4)]、中野 隆史[2,3)]
1）群馬大先端科学者育成ユニット、2）群馬大院 医 腫瘍放射線学、3）群馬大重粒子線医学研究センター、4）東北大加齢研病態臓器構築

W4-4 臨床的放射線耐性細胞の性質

○桑原 義和、鷲尾 亮太、福本 基、漆原 佑介、鈴木 正敏、福本 学
東北大 加齢研 病態臓器

W4-5 局所進行口腔扁平上皮癌に対する化学放射線療法と放射線耐性について

○中山 秀樹
熊大院 生命科研 歯口外

ワークショップ5

10月1日(水) 14：40～16：10 C会場

座長：菅澤 薫（神戸大学）、池畑 広伸（東北大学）

紫外線誘発DNA損傷に対する生物の防御戦略とその分子基盤

W5-1 PCNAの翻訳後修飾によるDNA損傷トレランス制御機構の解析

○益谷 央豪[1)]、金尾 梨絵[1)]、増田 雄司[1)]、花岡 文雄[2)]
1）名古屋大学 環境医学研究所 ゲノム動態制御、2）学習院大学 理学部生命科学

W5-2 慢性的な紫外線損傷ストレスに対する耐性獲得に関与するヌクレオソーム構造

○菱田 卓
学習院大学理学部生命科学科

W5-3 紫外線損傷応答における放射線修復因子NBS1の機能とモデルマウスの作製

○柳原 啓見[1)]、加藤 晃弘[2)]、斎藤 裕一朗[2)]、小林 純也[2)]、松浦 伸也[1)]、小松 賢志[2)]
1）広島大学 原医研 放射線ゲノム疾患、2）京都大学 放生研 ゲノム動態

W5-4 転写共役ヌクレオチド除去修復の開始反応の分子機構

○荻 朋男
長崎大学がん・ゲノム不安定性研究拠点（NRGIC）

W5-5 紫外線誘発DNA損傷修復の細胞内制御機構

○菅澤 薫
神戸大 バイオシグナル

ワークショップ6

10月1日(水) 15：10～16：40 B会場

座長：馬嶋 秀行（鹿児島大学）、高橋 昭久（群馬大学）

宇宙放射線の測定と生物影響

W6-1 国際宇宙ステーション等における各種宇宙実験での線量評価

○内堀 幸夫
放射線医学総合研究所

W6-2 国際宇宙ステーションのその先へ ―ISS／有人惑星探査と宇宙放射線―

○永松 愛子
宇宙航空研究開発機構

W6-3 マウスES細胞を用いた哺乳動物に対する宇宙放射線の影響

○森田 隆
大阪市立大学大学院医学研究科

W6-4 ISS曝露部実験施設を利用した太陽放射光の植物（生物）影響解析の意義とその実現に向けて

○日出間 純
東北大学大学院・生命科学研究科

ワークショップ7

10月1日(水) 16:20～17:50 C会場

座長：和田 洋一郎（東京大学）、秋光 信佳（東京大学）

放射線生物影響の分子レベル解明に向けて

W7-1 オーバービュー：放射線影響の分子レベル理解に向けた取り組み

○秋光 信佳

東大、アイソトープ

W7-2 数理モデルを用いた放射線照射後の細胞生存率に対する細胞間シグナル伝達の影響解析

○服部 佑哉[1)]、横谷 明徳[1,2)]、渡辺 立子[1)]

1）日本原子力研究開発機構放射線影響解析研究グループ、2）日本原子力研究開発機構放射場生体分子科学研究グループ

W7-3 超離散化とセルオートマトンによる自然現象のモデル化

○Willox Ralph

東京大学大学院数理科学研究科

W7-4 大量データ解析を駆使した放射線影響解析手法の確立にむけて

○松井 啓隆[1)]、河合 秀彦[2)]、金井 昭教[1)]、稲葉 俊哉[1)]

1）広島大学 原爆放射線医科学研究所 がん分子病態、2）広島大学 原爆放射線医科学研究所 放射線細胞応答

W7-5 PETによる生体イメージング

○渡部 浩司、古本 祥三、谷内 一彦

東北大学 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター

W7-6 ゲノム・エピゲノム解析手法による放射線影響の探索

○和田 洋一郎

東京大学アイソトープ総合センター

ワークショップ8

10月2日(木) 8:20～10:20 B会場

座長：松本 孔貴（筑波大学）、高橋 昭久（群馬大学）

粒子線治療生物学の進展をめざして

W8-1 陽子線治療における基礎生物 ―RBE・OERに関して―

○岩田 宏満[1,5)]、荻野 浩幸[1)]、橋本 眞吾[1)]、柴田 洋希[2)]、安井 啓祐[2)]、大町 千尋[3)]、歳藤 利行[3)]、山田 真帆[4)]、溝江 純悦[1)]、芝本 雄太[5)]

1）名古屋陽子線治療センター 陽子線治療科、2）名古屋陽子線治療センター 陽子線治療技術科、
3）名古屋陽子線治療センター 陽子線物理科、4）名古屋市立西部医療センター 放射線治療科、
5）名古屋市立大学大学院 放射線医学分野

W8-2 治療用陽子線の生物学的効果

○Gerelchuluun Ariungerel[1)]、石川 隆昭[2)]、真鍋 絵梨[1)]、鈴木 健之[1)]、Asaithamby Aroumagame[3)]、David J Chen[3)]、坪井 康次[1)]

1）筑波大学人間総合科学研究科、2）筑波大学医学群医療科学類、3）テキサス大学、放射線腫瘍学

W8-3 重粒子線がん治療の至適分割照射法開発のための基礎的研究

○吉田 由香里[1)]、安藤 興一[1)]、小池 幸子[2)]、鵜澤 玲子[2)]、磯野 真由[1)]、池田 裕子[1)]、溝端 健亮[1)]、金井 達明[1)]、大野 達也[1)]、中野 隆史[1)]

1）群馬大学重粒子線医学研究センター、2）放射線医学総合研究所

W8-4 放射線治療後の再増殖腫瘍モデルの樹立とこれらの性質変化の解析

○佐藤 克俊、今井 高志、下川 卓志

放医研 重粒子医科学セ 先端粒子線生物

W8-5　X 線・炭素イオン線照射のがん転移能に与える影響

皆巳 和賢[1)]、○今泉 大将[1)]、中谷 香菜[1)]、松本 孔貴[3)]、佐藤 克俊[4)]、松浦 成昭[1,2)]、小泉 雅彦[1)]
1）大阪大学大学院医学系研究科、2）大阪府立成人病センター、3）筑波大学医学医療系臨床医学域放射線腫瘍科、
4）放射線医学総合研究所

W8-6　治療生物学的解析から見た硼素中性子捕捉療法（BNCT）の特性

○増永 慎一郎[1)]、田野 恵三[1)]、櫻井 良憲[2)]、田中 浩基[2)]、鈴木 実[3)]、近藤 夏子[3)]、真田 悠生[1)]、
森脇 隆仁[1)]、楢林 正流[3)]、渡邉 翼[3)]、仲川 洋介[3)]、丸橋 晃[2)]、小野 公二[3)]
1）京大原子炉粒子線生物、2）京大原子炉放射線医学物理、3）京大原子炉粒子線腫瘍

ワークショップ9　10月2日㈫　8：20～10：20　C 会場

座長：鈴木 正敏（東北大学）、山城 秀昭（新潟大学）

東京電力福島第一原子力発電所事故による被災動物から放射線生物影響を考える

W9-1　福島原発事故被災牛の血漿生化学検査と病理解析による被ばく影響評価

○漆原 佑介[1)]、川角 浩[2)]、平川 泰子[2)]、木野 康志[3)]、関根 勉[4)]、桑原 義和[1)]、鈴木 正敏[1)]、井上 和也[1)]、
高橋 慎太郎[1)]、山城 秀昭[5)]、阿部 靖之[6)]、磯貝 恵美子[7)]、篠田 壽[8)]、新井 敏郎[2)]、福本 学[1)]
1）東北大 加齢研 病態臓器、2）日獣医大 獣医学部、3）東北大院 理学研究科、4）東北大学 高等教育開発推進センター、
5）新潟大院 自然科学研究科、6）帯広畜産大学 原虫病研究センター、7）東北大院 農学研究科、8）東北大院 歯学研究科

W9-2　放射性物質汚染地域に生息するアカネズミの生物影響解析

○三浦 富智[1)]、中田 章史[2)]、藤嶋 洋平[1)]、氏家 里紗[1)]、葛西 宏介[1)]、田副 博文[3)]、有吉 健太郎[3)]、
齋藤 幹男[4)]、鈴樹 亨純[5)]、山田 正俊[3)]、吉田 光明[3)]、福本 学[6)]
1）弘前大 保健学研究科、2）北海道薬大 薬 基礎薬学、3）弘前大 被ばく医療総合研究所、4）（公財）環境研、
5）みちのくファウナリサーチ、6）東北大 加齢研 病態臓器構築

W9-3　DNA 濃縮技術を用いた被災ウシの経世代的エクソン領域解析

○山城 秀昭[1)]、阿部 靖之[2)]、桑原 義和[3)]、漆原 佑介[3)]、鈴木 正敏[3)]、トウ ビン[1)]、瀧野 祥生[1)]、
菅野 有晃[1)]、岩島 玲奈[1)]、大段 隆史[4)]、藤 晋一[4)]、木野 康志[5)]、福田 智一[6)]、磯貝 恵美子[6)]、福本 学[3)]
1）新潟大学自然科学研究科、2）帯広畜産大学原虫病研究センター、3）東北大学加齢医学研究所、
4）秋田県立大学生物資源科学部、5）東北大学理学研究科、6）東北大学農学研究科

W9-4　被ばく線量評価における歯の重要性

○篠田 壽
東北大院 歯 環境歯学研究センター

W9-5　福島第一原発事故被災動物とその環境中の放射能測定

○木野 康志[1)]、小荒井 一真[1)]、入澤 歩[1)]、漆原 佑介[2)]、林 剛平[2)]、鈴木 正敏[2)]、阿部 靖之[3)]、
山城 秀昭[4)]、福田 智一[5)]、磯貝 恵美子[5)]、小林 仁[6)]、岡 壽崇[1,7)]、関根 勉[7)]、篠田 壽[8)]、福本 学[2)]
1）東北大院理、2）東北大加齢研、3）新潟大自然、4）帯広畜産大原虫病セ、5）東北大院農、6）東北大高教機、7）宮城大食、
8）東北大院歯

W9-6　ヒト以外の生物に関する放射線防護と線量評価の枠組み

○川口 勇生[1,2,3)]
1）（独）放射線医学総合研究所、2）放射線防護研究センター、3）規制科学総合研究グループ

ワークショップ10　10月3日㈮　9：00～10：30　C 会場

座長：石井 直明（東海大学）、鈴木 芳代（日本原子力研究開発機構）

現代放射線線虫学　～マツノザイセンチュウと C. エレガンスにみる巧妙な生存戦略～

W10-1　鹿児島県におけるマツの材線虫病とその防除について

○久保 慎也
鹿児島県森林技術総合センター

W10-2 X- 線照射による線虫 *C. elegans* の寿命延長へのホルミシス効果におけるエネルギー代謝変動

○石井 直明[1)]、安田 佳代[2)]、石井 恭正[1)]、林 政太朗[1)]
1）東海大学 医 分子生命科学、2）東海大学 教育研究支援センター

W10-3 脱塩基部位修復は線虫 C. エレガンスの生存と生殖に寄与する

○加藤 悠一、秋山（張） 秋梅
京都大院 理 環境応答遺伝子科学

W10-4 線虫の行動における生存戦略について　―走性に着目して―

○坂下 哲哉
原子力機構 マイクロビーム

ワークショップ11

10月3日㈮　10：30～12：30　B会場

座長：近藤 隆（富山大学）、三浦 雅彦（東京医科歯科大学）

ICRR 2015を迎えるにあたって　―未来に繋ぐ放射線研究―

W11-1 東京大会から ICRR 京都招致に至る道程

○大西 武雄
奈良医大・JARR 会長

W11-2 福島原発事故に関連する特別シンポジウムについて

○神谷 研二[1, 2)]
1）広島大学原爆放射線医科学研究所、2）福島県立医科大学

W11-3 これからの放射線研究　―新たな生命科学の先導役として―

○宮川 清
東大院 医 放射線分子医学

W11-4 放射線発がん研究の現状と今後

○島田 義也
放医研・防護セ・発達期

W11-5 これからの細胞死・情報伝達研究

○鈴木 啓司、山下 俊一
長崎大 原研 放射線災害医療

W11-6 放射線治療生物学の将来展望

○三浦 雅彦
医科歯科大院 口放腫

W11-7 放射線治療研究

○長谷川 正俊[1)]、西村 恭昌[2)]
1）奈良県立医科大学医学部 放射線腫瘍医学講座、2）近畿大学医学部 放射線腫瘍学部門

W11-8 重粒子線研究の魅力とは

○中野 隆史[1, 2)]
1）群馬大学大学院医学系研究科腫瘍放射線学、2）群馬大学重粒子線医学研究センター

W11-9 日本放射線影響学会の役割

○福本 学
東北大学加齢医学研究所病態臓器構築研究分野

ワークショップ12　10月3日㈮　10：40～12：30　C会場

座長：立花 章（茨城大学理学部）、石合 正道（京都大学放射線生物研究センター）

低線量（率）放射線による生物影響研究の新展開

W12-1 γ線緩照射による放射線適応応答誘導とその機構

○立花 章[1)]、長森 夏海[1)]、松永 愛美[1)]、郡司 未佳[1)]、小林 純也[2)]
1）茨城大 理、2）京都大 放生研

W12-2 低線量率ガンマ線連続照射したマウス肝臓における加齢マーカーの解析

○杉原 崇[1)]、村野 勇人[2)]、田中 聡[1)]、田中 イグナシャ[1)]、小村 潤一郎[1)]
1）環境科学技術研 生物影響、2）東北環境科学サービス

W12-3 低線量率γ線連続照射下における非相同末端結合の重要性とその意義

○冨田 雅典[1)]、小林 純也[2)]、松本 義久[3)]、内海 博司[4)]
1）電中研 原技研 放射線安全、2）京都大 放生研、3）東工大 原子炉研、4）（公財）体質研

W12-4 低線量・低線量率放射線の細胞への影響　―活性酸素の観点から

○秋山（張） 秋梅[1)]、吉川 幸宏[1)]、松井 亜子[1)]、細木 彩夏[2)]
1）京大院 理 生物 環境応答遺伝子科学、2）放射線医学総合研究所

W12-5 ヒト培養細胞株を用いた低線量放射線メタボロミクス

○津山 尚宏[1)]、片渕 淳[1)]、阿部 悠[1)]、黒須 由美子[1)]、吉田 光明[1,2)]、神谷 研二[1,3)]、坂井 晃[1)]
1）福島県立医科大学医学部放射線生命科学、2）弘前大学被ばく医療総合研究所放射線生物学部門、
3）広島大学原爆放射能医科学研究所分子発がん制御研究分野